



## QRコード



「ふれあいだより」と  
「ふれあい通信」の最新  
号およびバックナンバー  
が閲覧できます。

日本では監視が必要な火山が五〇箇所あり、小田原市近くでは富士山と箱根が対象となっています。最後の噴火は一七〇七年の「宝永噴火」その前が八六四年〜八六六年と二年間に及んだ「貞観噴火」(じょうがん)が記録されていますが、富士山は歴史的に何度も噴火を繰り返しており約五六〇〇年の間に一八〇回の噴火が確認されています。必ず噴火はあると見られています。富士山噴火にはマグマが地表を流れる「溶岩流」と

## 富士山の噴火は必ずある

### 新屋地区防災教室開催

去る九月一九日(金)午後六時三〇分〜八時、西北公民館において、富水地区まちづくり委員会防災分科会主催の「新屋地区防災教室」が開催されました。今回は、小田原市防災対策課 防災士 下澤様に富士山噴火をテーマに説明いただきました。特に「火山灰」型の噴火に備えた食料や装備などがあらためて必要だと認識しました。

「火山灰」があります。貞観噴火は頂上からではなく大室山や長尾山などから溶岩が噴出しており、噴火後鮎沢川、酒匂川を伝って足柄平野への到達は一七日と推定され、時間を要するので慌てることなく状況見て対処することが出来ます。一方、宝永噴火では一六日間噴火が続いており火山灰が偏西風に乗って江戸まで届いていました。火山灰は即刻被害が及ぶことになりますが、一〇センチ積もると一般車は走ることができません。三センチでも坂道はスリッパしてしまいます。宝永噴火規模では足柄平野では一六〜三〇センチメートルの火山灰が積もると推定されおり物資の輸送は滞る事に



なるので、食料などは一週間分の備蓄が推奨され、可能なら二週間分が望ましいとされています。ライフラインは即座に止まることはないと考えられるので、冷蔵庫内の食材も含めて備蓄量を考えれば良いでしょう。一日一人三リットル必要な飲料水も含めて準備ください。火山灰はガラス片など硬く角張った形状で気管支や肺にも入り込む



## ちょっとおじゃまして〜す

### 高齢者よろず相談所「地域包括支援センターとみず」紹介

『地域包括支援センターとみず』は、令和4年10月より事務所を富水小学校横に移して活動をしています。このセンターは、富水地区在住の高齢者の皆さんが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続け自立した生活が



送れるようお手伝いをしています。悩みなど相談ごとがある場合は電話してください。相談は無料で秘密は厳守します。電話番号は「0465-44-4900」です。